

平成25年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月4日

上場取引所 大

上場会社名 ケイティケイ株式会社

コード番号 3035 URL <http://www.ktk.gr.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 青山 英生

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長

(氏名) 木村 裕史

TEL 052-931-1881

四半期報告書提出予定日 平成25年7月4日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年8月期第3四半期の連結業績(平成24年8月21日～平成25年5月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年8月期第3四半期	8,262	—	31	—	44	—	54	—
24年8月期第3四半期	6,321	△2.7	15	△65.9	12	△71.5	1	△87.4

(注) 包括利益 25年8月期第3四半期 75百万円 (—%) 24年8月期第3四半期 2百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年8月期第3四半期	11.29	—
24年8月期第3四半期	0.51	—

当社は、平成24年8月期より決算期を毎年5月20日から毎年8月20日に変更しております。これに伴い、25年8月期第3四半期(8月21日から5月20日まで)と比較対象となる24年8月期第3四半期(5月21日から2月20日まで)の期間が異なるため、25年8月期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
25年8月期第3四半期	8,480	—	2,417	—	28.5
24年8月期	4,101	—	1,947	—	47.5

(参考) 自己資本 25年8月期第3四半期 2,417百万円 24年8月期 1,947百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年8月期	—	4.00	—	3.00	7.00
25年8月期	—	3.00	—	—	—
25年8月期(予想)	—	—	—	4.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年8月期の連結業績予想(平成24年8月21日～平成25年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,892	—	132	—	117	—	46	—	9.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成24年8月期は決算期の変更により15か月決算となっておりますので、平成25年8月期の連結業績予想の対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社青雲クラウン、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年8月期3Q	5,875,000 株	24年8月期	3,675,000 株
② 期末自己株式数	25年8月期3Q	152,815 株	24年8月期	37,715 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年8月期3Q	4,802,247 株	24年8月期3Q	3,637,285 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前連結会計年度の決算期変更に伴い、当第3四半期累計期間は比較対象となる前第3四半期連結累計期間と対象期間が異なるため、対前年同四半期増減比については記載していません。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成24年8月21日～平成25年5月20日)のわが国経済は、前半においては海外経済の減速等を背景として景気回復の動きに停滞が見られたものの、昨年12月の政権交代以降、安倍新政権の大胆な経済政策(いわゆるアベノミクス)への期待感から円安、株高が進行し、景気は緩やかに持ち直しつつあります。しかしながら実体経済の動向につきましては、依然として不透明な状況が続いております。

このような中で、当社グループを取り巻く経営環境は、主力製品であるリサイクルトナーの販売が伸び悩み、引き続き厳しい状況で推移しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,262百万円となりました。営業利益は31百万円、経常利益は44百万円となりました。四半期純利益は株式会社青雲クラウンの子会社化に伴う負ののれん発生益26百万円を加えた結果、54百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(サプライ事業)

主力商品であるリサイクル商品(リパケットナー)は、競合他社との販売競争の激化により販売本数が当初予測を下回ったこと、OAサプライ商品では、PPC用紙が順調に推移したこと、その他商品では、子会社化した株式会社青雲クラウンの業績が当第3四半期連結会計期間より組み入れられたこと等により、売上高8,074百万円、セグメント利益(経常利益)は11百万円となりました。

(ソリューション事業)

注力しているクラウド型メールセキュリティサービス「@Securemail」シリーズにおきましては、売上高は増加したものの新規顧客の獲得数が当初計画に及ばず、またシステム構築におきましては案件減少の影響等があり、売上高は188百万円、セグメント利益(経常利益)は33百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、株式会社青雲クラウンの子会社化に伴い前連結会計年度末に比べ4,378百万円増加し、8,480百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,501百万円増加し、5,822百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により現金及び預金が1,092百万円、受取手形及び売掛金が1,855百万円、商品及び製品が460百万円増加したこと等によります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ876百万円増加し、2,658百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により有形固定資産が366百万円、無形固定資産が130百万円、投資その他の資産が379百万円増加したことによります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ3,530百万円増加し、5,557百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により支払手形及び買掛金が2,374百万円、短期借入金が912百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ378百万円増加し、505百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化等により長期借入金が240百万円増加したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ470百万円増加し、2,417百万円となりました。これは、主に株式会社青雲クラウンの子会社化に伴う新株発行費用により、資本剰余金が448百万円増加したこと等によります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経済状況につきましては、政府による経済政策効果により、国内景気は上向きで推移していくことが期待されています。一方で、海外経済情勢が不安定な状況も見受けられ、国内景気が下押しされるリスクも引き続き存在し、依然として国内経済は先行き不透明な状況にあります。

このような中での当社グループは、当社の100%子会社である株式会社アイオーテクノによる生産体制と当社によるエンドユーザーへの販売体制に加え、平成24年12月21日の経営統合により当社の100%子会社となった株式会社青雲クラウンによる調達・物流のプラットフォームを有機的に結びつけ、ドキュメントソリューションとプリンティングコンサルティングの観点から、お客様の環境貢献とコスト削減を両立させた最適調達のご提案を推進し、収益の拡大に努めてまいります。

以上により、平成25年8月期の連結業績予想につきましては、平成24年10月4日に発表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間より、株式会社青雲クラウンの株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

《簡便な会計処理》

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計年度末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

⑤法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 8 月20日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成25年 5 月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	873,625	1,965,799
受取手形及び売掛金	1,153,707	3,008,949
有価証券	20,984	20,995
商品及び製品	127,357	588,333
仕掛品	3,400	1,881
原材料及び貯蔵品	88,149	74,164
その他	55,507	164,613
貸倒引当金	△2,298	△2,363
流動資産合計	2,320,435	5,822,373
固定資産		
有形固定資産		
土地	863,977	1,176,600
その他(純額)	390,468	444,177
有形固定資産合計	1,254,446	1,620,777
無形固定資産		
その他	91,187	222,096
無形固定資産合計	91,187	222,096
投資その他の資産		
その他	438,078	818,570
貸倒引当金	△2,491	△3,391
投資その他の資産合計	435,587	815,178
固定資産合計	1,781,221	2,658,052
資産合計	4,101,656	8,480,426
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	772,354	3,146,791
短期借入金	963,772	1,876,452
未払法人税等	2,117	22,784
賞与引当金	32,413	15,000
その他	256,370	496,456
流動負債合計	2,027,027	5,557,484
固定負債		
長期借入金	9,216	250,019
役員退職慰労引当金	69,247	133,107
その他	48,927	122,374
固定負債合計	127,390	505,500
負債合計	2,154,418	6,062,985

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 8 月20日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成25年 5 月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	259,675	708,475
利益剰余金	1,412,486	1,438,644
自己株式	△20,929	△46,419
株主資本合計	1,945,907	2,395,375
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,331	22,066
その他の包括利益累計額合計	1,331	22,066
純資産合計	1,947,238	2,417,441
負債純資産合計	4,101,656	8,480,426

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年 5月21日 至 平成24年 2月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年 8月21日 至 平成25年 5月20日)
売上高	6,321,416	8,262,437
売上原価	4,706,181	6,415,247
売上総利益	1,615,234	1,847,190
販売費及び一般管理費	1,599,350	1,815,301
営業利益	15,884	31,888
営業外収益		
受取利息	161	131
受取配当金	1,022	650
持分法による投資利益	—	13,621
仕入割引	—	10,100
受取家賃	2,565	10,455
受取手数料	635	409
その他	7,128	4,134
営業外収益合計	11,513	39,505
営業外費用		
支払利息	7,840	10,607
売上割引	—	12,135
その他	7,453	4,000
営業外費用合計	15,293	26,744
経常利益	12,104	44,649
特別利益		
負ののれん発生益	—	26,297
特別利益合計	—	26,297
特別損失		
投資有価証券評価損	264	—
特別損失合計	264	—
税金等調整前四半期純利益	11,840	70,946
法人税、住民税及び事業税	6,093	18,639
法人税等調整額	3,873	△1,928
法人税等合計	9,966	16,710
少数株主損益調整前四半期純利益	1,873	54,236
四半期純利益	1,873	54,236

四半期連結包括利益計算書
第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 5 月21日 至 平成24年 2 月20日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 5 月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,873	54,236
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,034	20,734
持分法適用会社に対する持分相当額	—	314
その他の包括利益合計	1,034	21,049
四半期包括利益	2,908	75,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,908	75,285
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第 3 四半期連結累計期間(自 平成23年 5 月21日 至 平成24年 2 月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,123,745	197,671	6,321,416	—	6,321,416
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	454	454	△454	—
計	6,123,745	198,125	6,321,871	△454	6,321,416
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△9,345	21,450	12,104	—	12,104

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。

II 当第 3 四半期連結累計期間(自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 5 月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,074,277	188,160	8,262,437	—	8,262,437
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	429	429	△429	—
計	8,074,277	188,590	8,262,867	△429	8,262,437
セグメント利益	11,632	33,017	44,649	—	44,649

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「サプライ事業」セグメントにおいて、当社が平成24年12月21日に株式会社青雲クラウンを完全子会社化したため、当第 3 四半期連結累計期間において、負ののれん発生益26百万円を計上しております。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年12月21日付で当社を完全親会社とし、株式会社青雲クラウンを完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この株式交換により、発行済株式数が2,200,000株増加するとともに、資本剰余金が448,800千円増加しております。